全国学校・園庭

ビオトープコンクール 2019 報告書

公益財団法人
日本生態系協会

はじめに

公益財団法人日本生態系協会
会長　池谷奉文

身近な自然は、子どもたちの発育や学習に欠かすことのできない、最も大切な環境です。「学校ビオトープ」や「園庭ビオトープ」は、その身近な自然を体験できる、教育のための施設です。

野生の生きものとのふれあいは、子どもたちの豊かな感性や思いやる心を育みます。冒険や発見の連続は、説明力や表現力、友だちと協力する態度を醸成します。ときには思いどおりにならないのが自然ですが、そのような刺激を受け、子どもたちは考える力を身につけます。

そのようなビオトープのおまつり「全国学校・園庭ビオトープコンクール」は今回が11回目、1999年度から隔年で催し、通算で22年になりました。それでもまた新しい活用法や工夫が生み出されていることに、ビオトープの無限な可能性を感じます。

この報告書では、コンクール2019を通して出会った素晴らしい実践事例や近年の傾向、これから目指すべき方向性などについてとりまとめました。自然と共存する持続可能な社会に向けた人づくり、地域づくりは、世界のスタンダードです。わが国においてもそうしたことを実現できるよう、本書をお役立ていただければ幸いです。

もくじ

ページ	内容
02	はじめに
03	「ビオトープ」ってなに？
	学校・園庭ビオトープ 取り組みのポイント
04	全国学校・園庭ビオトープコンクール2019 上位5賞の事例
	文部科学大臣賞　甲賀市立油日小学校（滋賀県） 環境大臣賞　所沢市立安松小学校（埼玉県） 国土交通大臣賞　豊田市立五ケ丘東小学校（愛知県） ドイツ大使館賞　富田林市立新堂幼稚園（大阪府） 協会会長賞　富田林市立青葉丘幼稚園（大阪府）
	日本生態系協会賞　受賞校・受賞園 学校・園庭ビオトープコンクール奨励賞　受賞校・受賞園
08	全国学校・園庭ビオトープコンクール2019 概要
	関連イベント「みんなのビオトープ展」
10	全国学校・園庭ビオトープコンクール2019 講評
11	学校・園庭ビオトープ チェックシート

「ビオトープ」ってなに？

BIOは生きもの、TOPは空間の意。BIOTOP（ビオトープ）は、野生の生きものが生息する場所・空間のことを言います。

森や林、草はら、池、小川、浜辺など、身近な自然の中には本来、いろいろなタイプのビオトープが豊かにあるものです。ところが、経済や効率など大人の都合を優先したまちづくりが行われた結果、自然のビオトープは徐々に姿を消してしまいました。

しかし、子どもたちの健全な成長のためには自然とのふれあいが必要です。そこで、日常的に自然とふれあえるよう、地域の自然をお手本にして校庭や園庭につくられるようになったのが、「学校ビオトープ」や「園庭ビオトープ」です。

ドイツで考案された学校ビオトープ・園庭ビオトープをわが国に紹介してはや30余年。日本生態系協会では、日本ビオトープ管理士会ほか関連団体の後援のもと、『全国学校・園庭ビオトープコンクール』を開催しています。

学校・園庭ビオトープ 取り組みのポイント —コンクールにおける6つの審査観点—

審査は、学校・園庭ビオトープを通じて環境教育や自然体験活動を進めていく際の“ポイント”を6つの観点に整理し、それをもとに行いました。

- 地域の自然をお手本とし、地域の生きものが暮らしやすいように工夫しているか。
- （特に小学生においては）取り組み全体を通じ、子どもたちが積極的に、主体的に関わっているか。
- 取り組み全体を通じ、保護者や地域住民、環境NGO、行政機関、団体・企業などと継続的に連携をしているか。
- 子どもたちの豊かな感性を育むために、学校・園庭ビオトープを積極的に活用しているか。また、様々な教科や特別活動で、広く教材として活用しているか。
- 学校・園庭ビオトープを育成管理し、活用を継続するための、体制が整っているか。
- 取り組みを地域に発展させ、ビオトープのネットワークや人のつながりを広げていく視点を持っているか。

4～6ページ「上位5賞の事例」で、上記のポイントをご確認ください。

11ページ「チェックシート」は、ご自身の取り組みの課題点をみつけることができます。

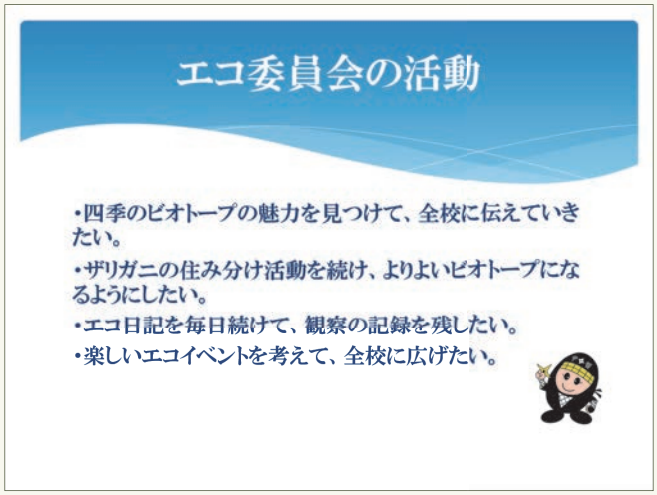
全国学校・園庭ビオトープコンクール2019

上位5賞の事例

大臣賞、会長賞などの「上位5賞」は、実践モデルとなる優れた取り組みとして表彰されたものです。
特に際立って秀でていると評された特徴をもとに、各賞が決定されました。

文部科学大臣賞
甲賀市立 油日小学校（滋賀県）

学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に体験活動や学習活動の内容・成果が秀でているとして表彰されました。
多様な企業や団体と連携しながら、ビオトープを通じて地場産業「薬業」で学習を広げる取り組みです。



「甲賀の原風景」を目標に掲げた学校ビオトープを全学年の授業で計画的に活用するほか、下級生憧れの5・6年生で構成されるエコ委員会が中心となり、校内での普及啓発や他校との交流に取り組んでいます。

エコ委員会による多彩な普及啓発

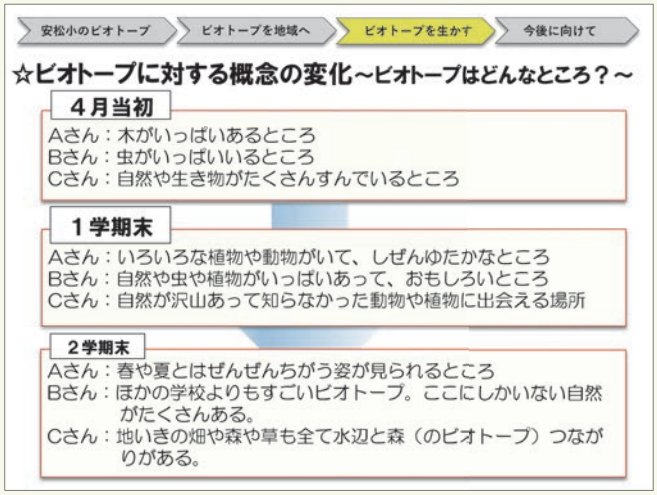
エコ委員会では、啓発劇やエコ新聞の掲示、ミニ水族館、昼休みの自然観察会など様々なかたちで、地域種の保全の大切さを普及啓発する活動に取り組んでいます。
また、ザリガニが大好きな児童に配慮し、混入してしまったアメリカザリガニは別の池に移し、駆除ではなくすみ分けを進めています。

地場産業の体験学習の場に

地場産業である「薬業」の体験学習の場として、地域の製薬企業や薬業組合、大学や高校との連携のもと、ムラサキなどビオトープで育てた地域在来の薬草を活用した学習「目指せ！ 薬草博士」を展開しています。児童はこの学習を通じ、地域を誇りに思ったり、自然と産業のつながりを学んだりしています。

環境大臣賞
所沢市立 安松小学校（埼玉県）

学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に野生の生きものすむ「ビオトープ」の質が秀でているとして表彰されました。
ツミが生息できるビオトープを目指し、ビオトープの質を高めながら自然との共存を考える取り組みです。



地域の市民団体や保護者と連携し、猛禽類のツミをはじめ、地域の多様な生きものが生息できる学校づくりを目指しています。
また、人や生きものがくらしやすい地域を考える活動にまで学習を発展させています。

環境の種類に応じた目標種の設定

学校に隣接する民有林では猛禽類のツミ、敷地内に創出した池ではカワセミやギンヤンマと、環境の種類ごとに誘致したい生きものを設定し、それぞれに応じた保全管理活動を実施しています。

生きものがくらしやすい地域の探求へ

授業で市民団体から地域における国蝶・オオムラサキの分布について説明を受けた児童は、オオムラサキを学校に誘致するビオトープネットワークの可能性を調べるため、市内の全小学校宛に「幼虫の食樹であるエノキの有無を教えてください」と、自分の言葉で手紙を送りました。学校ビオトープでの体験活動が児童の知的好奇心をくすぐり、行動する力を引き出しています。

＊ 上位5賞は発達段階を問いません。また、
上位5賞の位置付けに優劣はありません。

事例発表
YouTube
↙

国土交通大臣賞
豊田市立 五ケ丘東小学校（愛知県）

学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に人と自然が共存するまちづくりに繋がる点が秀でているとして表彰されました。
学校ビオトープの取り組みが地域に波及し、自然と共存したまちづくりの拠点となりつつある取り組みです。

40年前に地域にあった自然を学校の敷地内に再現することから始まった学校ビオトープです。

トンボなどの生きもののために熱心に保全管理に関わる児童の取り組みが、地域住民に評価され、人と自然が共存するまちづくりの機運の高まりにつながっています。

保全管理を学年で分担

3～6年生が分担し、上級生が下級生をサポートしながら、学校全体のビオトープ化を進めています。

トンボが産卵しやすくするための池や草地の適度な草刈り、粗朶（そだ）積み、外来種の除去などを行った結果、31種類のトンボが確認されるまでになりました。

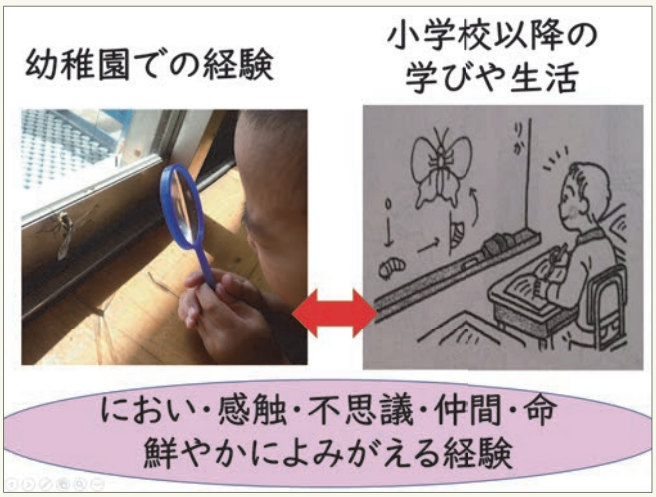
学校ビオトープを起点に人と自然が共存するまちへ

児童、教員、保護者の活発な取り組みが地域に波及し、もともとあった「図鑑でしか自然を知らない子どもたちのために、豊かな環境をそのまま残したまちづくり」を復活させようと、荒廃した里山や散策道の管理が動き出しました。児童の参画も予定されています。

☆ ☆ ☆

ドイツ大使館賞
富田林市立 新堂幼稚園（大阪府）

学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、園庭ビオトープを題材にユニークな体験・学習活動を行っているとして表彰されました。
園庭ビオトープでの気づきや感動から始まる学びを大切にしながら幼小連携を促進させる取り組みです。



人として豊かに生きる学びの根幹を育むという願いをもち、ビオトープで自然、生きもの、命にふれあい、心動かされる経験を大切にしています。

それらを基盤に小学校以降の学びや生活との関連性も研究し、日々の教育活動に生かしています。

園庭ビオトープを生活の一部に

園内の田んぼに集まる生きもの姿から、水の大切さを実感し、田んぼが現在のビオトープの始まりとなりました。

園庭ビオトープを生活の一部と位置づけ、時間の経過とともに起きる様々な変化や出来事を、園児と保育者が日々共有し合っています。

発見をもとに深い学びへ

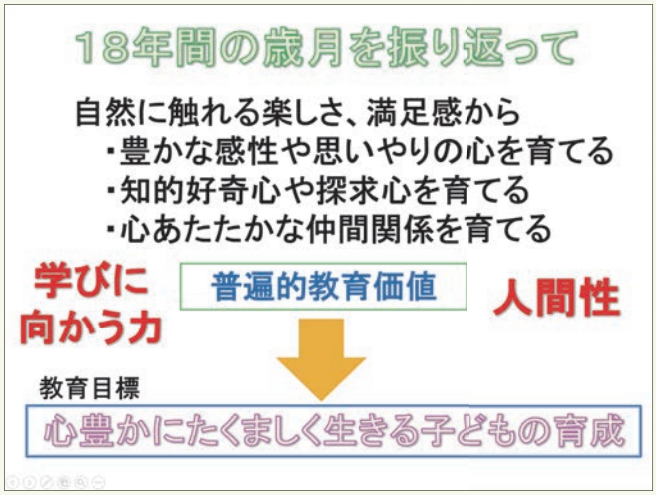
知識だけでなく、リアルな感動こそが次なる学びの意欲となることを踏まえて、園児の発見などを上手に取り上げ、「もっと調べてみたい」など、深い学びにつなげています。

研究を通じて、こうした活動が小学校の理科や算数の学習にも寄与していることが分かってきています。

日本生態系協会会長賞
富田林市立 青葉丘幼稚園（大阪府）

学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に地域とのパートナーシップの観点で秀でているとして表彰されました。

月1回の「ビオトープ遊びタイム」やビオトープの管理を、地域との連携協働の下で長年進める取り組みです。



「園庭は教材の宝庫である」という地域からの声を受け、自然いっぱいの園庭を設置しました。

18年もの間、継続して地域ボランティアと連携しながら、「あおばのこみち」など園庭ビオトープを今なお広げ、幼児教育の可能性を追求し続けています。

園児のビオトープでの遊びを記録

地域のボランティアによる「ビオトープ遊びタイム」をはじめ、ビオトープでの遊びから生まれる園児の絵やつぶやきをマップ化して共有するとともに、園児の遊びや出会う生きものの年間計画「ビオトープの四季」を作成し、教員間の情報共有や引継ぎに活用しています。

ビオトープの管理も遊びの一環

保全管理には、地域のボランティアや保護者OBが継続的に関わっています。また園児も、「あおばのこみち」の野草の植栽、メダカのための増えた藻の除去、池の岸の補修などに、遊びの一環として楽しみながら関わります。

そうした一連の体験を通じ、園児は豊かな遊び方を身につけています。

上位5賞のほか、たくさんの学校・園が日本生態系協会賞、学校・園庭ビオトープ奨励賞を受賞しました。

日本生態系協会賞

学校・園庭ビオトープの、特に優れた取り組みが表彰されました。

発達段階・地域順

★ 幼稚園・保育所・認定こども園

(学)山の手学園 平和幼稚園(北海道)
(学)北広島竜谷学園 広島幼稚園(北海道)
(福)しらかば福祉会 しらかば保育園(青森県)
(福)愛光福祉会 長町自由の星保育園(宮城県)
(福)花畑福祉会 つくばこどもの森保育園(茨城県)
(福)峰悠会 認定こども園おおぞら幼保園(群馬県)
(福)ひなどり保育園 浦和ひなどり保育園(埼玉県)
(福)藤寿会 しののめキッズパーク保育園(埼玉県)
(学)吉岡学園 まどか幼稚園(千葉県)
(福)興善会 しらさぎ保育園(東京都)
(福)砂原母の会 そあ保育園(東京都)
(学)東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園(東京都)
(学)長津田学園 ながつた幼稚園(神奈川県)
くらき永田保育園(神奈川県)
小学館アカデミー西いくた保育園(神奈川県)
(学)平岡学園 平岡幼稚園(神奈川県)
新潟市立沼垂幼稚園(新潟県)
(福)浄英会 恵和こども園(新潟県)
(福)はなみずき福祉会 みしま中央こども園(新潟県)
(学)鶴来学園 鶴来第二幼稚園(石川県)
高遠第2・第3保育園(長野県)
西箕輪南部保育園(長野県)
喬木南保育園(長野県)
(福)得雲会 青松こども園(愛知県)
富田林市立 錦郡幼稚園(大阪府)
認定こども園 難波愛のその幼稚園(兵庫県)
(学)清麿学園 認定こども園 清和幼稚園(福岡県)
(福)杉の実福祉会 高見の森保育園(福岡県)
南関こどもの丘保育園(熊本県)
(福)心耕福祉会 幼保連携認定こども園 ひかりの森こども園(宮崎県)
認定こども園 せんだい幼稚園(鹿児島県)

★ 小学校・中学校・高校

気仙沼市立 面瀬小学校(宮城県)
日立市立 大沼小学校(茨城県)
筑西市立 養蚕小学校(茨城県)
栃木県立 那須拓陽高等学校(栃木県)
所沢市立 清進小学校(埼玉県)
上尾市立 平方北小学校(埼玉県)
久喜市立 久喜小学校(埼玉県)
千葉市立 越智小学校(千葉県)
江東区立 越中島小学校(東京都)
江東区立 亀高小学校(東京都)
世田谷区立 等々力小学校(東京都)
杉並区立 永福小学校(東京都)
杉並区立 中瀬中学校(東京都)
東京家政大学附属女子中学校・高等学校(東京都)
桐朋学園小学校(東京都)
横浜市立 太尾小学校(神奈川県)
横浜市立 横浜サイエンスフロンティア高等学校(神奈川県)
川崎市立 下布田小学校(神奈川県)
静岡県立 三島南高等学校(静岡県)
湖西市立 知波田小学校(静岡県)
名古屋市立 豊田小学校(愛知県)
豊田市立 寿恵野小学校(愛知県)
大口町立 大口西小学校(愛知県)
大阪府立 園芸高等学校(大阪府)
三田市立 本庄小学校(兵庫県)
兵庫県立 篠山東雲高等学校(兵庫県)
広島市立 飯室小学校(広島県)
廿日市市立 宮園小学校(広島県)
大牟田市立 吉野小学校(福岡県)

★ 大学

(学)青森田中学園 青森中央短期大学(青森県)
東京都市大学(神奈川県)

学校・園庭ビオトープ奨励賞

学校・園庭ビオトープの優れた取り組みが讃えられ表彰されました。

★ 幼稚園・保育所・認定こども園

(福)久祐会 東峰保育園(栃木県)
(福)志正会 大久野保育園(東京都)
(学)真徳寺学園 まこと幼稚園(岐阜県)
認定こども園リーチェル幼稚園(静岡県)
幼保連携型認定こども園 枦谷つぐみ保育園(兵庫県)
(学)もみじ学園 もみじ幼稚園(山口県)
日和香幼稚園(福岡県)
(福)遊学会 ほぴあこども保育園(鹿児島県)

★ 小学校・中学校・高校

寒河江市立 南部小学校(山形県)
安中市立 碓東小学校(群馬県)
新座市立 野火止小学校(埼玉県)
千葉県立 船橋芝山高等学校(千葉県)
佐倉市立 染井野小学校(千葉県)
港区立 高松中学校(東京都)
板橋区立 板橋第二小学校(東京都)
小平市立 小平第六小学校(東京都)
横浜市立 本郷小学校(神奈川県)
横須賀市立 武山小学校(神奈川県)
厚木市立 相川小学校(神奈川県)
高岡市立 中田中学校(富山県)
瀬戸市立 掛川小学校(愛知県)
刈谷市立 亀城小学校(愛知県)
大津市立 逢坂小学校(滋賀県)
吹田市立 佐竹台小学校(大阪府)
吹田市立 東山田小学校(大阪府)
千里みらい夢学園吹田市立 桃山台小学校(大阪府)
八尾市立 曙川小学校(大阪府)
八尾市立 高安小中学校(大阪府)
岡山県立 邑久高等学校(岡山県)
石井町 石井小学校(徳島県)
福岡市立 有住小学校(福岡県)
福岡市立 香椎東小学校(福岡県)
古賀市立 舞の里小学校(福岡県)
宇美町立 宇美小学校(福岡県)
与論町立 那間小学校(鹿児島県)

全国学校・園庭ビオトープコンクール2019
概要

発表大会（上位5賞の事例発表）

補足調査（訪問）

中央審査委員会

今回のコンクールは右のスケジュールで進められました。

ご応募いただいた中から審査対象となる102件についてまず書類審査を行い、必要に応じて補足調査を行っています。

補足調査を実施する場合は、追加資料の取り寄せや電話でのヒアリング、学校・園への審査委員の派遣などの方法がとられました。審査委員は学識経験者やビオトープ管理士、こども環境管理士などの専門家が務めており、審査や補足調査の過程で取り組みへの助言も行っています。

各賞の受賞者は、書類審査と補足調査の結果を踏まえ、中央審査委員会にて厳正な審査のうえ決定されました。そのうち上位5賞の受賞者には、「発表大会」で自らの取り組みについて発表していただいています。

また、受賞者の多くは、発表大会の関連イベント「みんなのビオトープ展」で、ポスター発表を行いました。

2019年（令和元年）

6/20㈭　応募〆切　発達段階別の応募用紙にて

↓

7～10月　書類審査，補足調査※

※ 追加資料、ヒアリング、審査委員の現地訪問

↓

11/20㈬　中央審査委員会、結果をプレスリリース

↓

2020年（令和2年）

2/2㈰　発表大会

関連イベント「みんなのビオトープ展」（右参照）

期間　2019年度（令和元年度）
対象　学校・園庭ビオトープに取り組む小・中・高校、大学、幼稚園、保育所、認定こども園など（専門家による推薦あり）
主催　（公財）日本生態系協会
後援　文部科学省、環境省、国土交通省、農林水産省、厚生労働省、ドイツ連邦共和国大使館、全国国公立幼稚園・こども園長会、全日本私立幼稚園連合会、（福）全国社会福祉協議会全国保育協議会、（福）日本保育協会、（公社）全国私立保育園連盟、NPO法人全国認定こども園協会、（一社）日本保育学会、（公社）こども環境学会、（一社）日本環境教育学会、全国小中学校環境教育研究会、（公社）日本ナショナル・トラスト協会、日本ビオトープ管理士会
協賛　（株）アボック社、（一財）土屋環境教育振興財団

全国学校・園庭ビオトープコンクール2019　発表大会

日時　2020年(令和2年)2月2日㊐ 13:00-15:00
会場　国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 大ホール

コンクールの一連の流れのなか、年明けの2月には発表大会が行われました。

発表大会は、自慢の学校ビオトープ・園庭ビオトープのお披露目会です。全国各地からたくさんの方にご参加をいただき、秋篠宮皇嗣殿下の御臨席のもと、大臣賞や会長賞など“上位5賞”の受賞者による事例発表や、各賞の表彰式を執り行いました。

- 開会のあいさつ
- 秋篠宮皇嗣殿下のおことば
- 来賓のごあいさつ
- 上位5賞の表彰式
- 上位5賞受賞校・受賞園の取り組みの発表
- 講評
- 日本生態系協会賞、学校・園庭ビオトープ奨励賞賞状授与
- 懇親会　…「みんなのビオトープ展」と合同

＊殿下のおことば、上位5賞の取り組みの発表は、YouTubeでご覧いただけます。本誌中のQRコードをご利用ください。

関連イベント
みんなのビオトープ展

発表大会の閉会後、別棟にて関連イベント「みんなのビオトープ展」を開催しました。

身近な自然は子どもたちの健全な成長に欠かせません。そのため世界中の国々で学校ビオトープ・園庭ビオトープの設置活用が進められていますが、わが国においてもビオトープを通じた自然体験や環境学習がさらに推し進められるよう、活動に取り組む方々が一堂に会し、情報を交換するのが目的です。

会場では、ビオトープを通じた学習の様子や効果、取り組みの課題解決に向けた工夫や悩みなどをポスター発表形式で発信し、交流を深めていました。

日時　2020年(令和2年)2月2日㊐ 15:30-17:00
会場　国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟レセプションホール
主催　(公財)日本生態系協会、(公社)全国私立保育園連盟、(公社)こども環境学会、国際校庭園庭連合日本支部、日本ビオトープ管理士会
協賛　(有)ゼンポ

全国学校・園庭ビオトープコンクール2019
講評

自然も「地域」の視点が大事

自然について学習するとき、キーワードとなるのは「地域」です。

気候風土が長い年月をかけて培ってきた自然は、地方や地域により千差万別です。そのため自然を大切にするにあたっては、その地域にもともとある自然や動植物を守り育てていくことが重要となります。

学校・園庭ビオトープは、地域における「自然のもの」と「自然ではないもの」を区別できる目を醸成する場です。今回のコンクールでも、自然のものにこだわって環境づくりを図り、地域の自然への愛着を育みながら理解を深めている取り組みが、数多く見られました。

「自然との共存」を試みる実験室

「自然との共存」を具体的に推し進めるためには、自然や動植物についての知識、合意形成を図る力など、多様な能力が求められます。学校・園庭ビオトープは、こうした能力を、子ども自身が興味関心をもって習得する場にもなります。

今回のコンクールでは、ビオトープを管理するうえでの様々な課題が報告されました。自然を取り戻そうとするときには、思い描いた通りにならないことがたくさんあります。上手くいったときの達成感も大事ですが、そうならなかった体験も大事です。そうした体験を経て、今ある自然を大切にしたいという意識が育まれます。

「自然のもの」と「自然ではないもの」を、きちんと区別しましょう。

「自然のもの」の例 ※

シジュウカラ、　ツバメ、
アマガエル、　ニホントカゲ、
アゲハチョウ、　ヤマトシジミ、
カブトムシ、ナナホシテントウ、
アブラゼミ、　エンマコオロギ、オオカマキリ、　オンブバッタ、
シオカラトンボ、ドジョウ、メダカ、
ホトケノザ、　スギナ（つくし）、
スミレ、カタバミ、ガマズミ、
エノコログサ、ススキ、ヤマハギ、
フジバカマ、アケビ、カラスウリ、
ヤマザクラ、コナラ、エゴノキ
…など、
もともと地域に生活しているさまざまな野生の生きもの

「自然ではないもの」の例

飼育・愛玩動物

にわとり、チャボ、
あひる、　あいがも、
インコ、　ぶんちょう、
ハムスター、
モルモット、
フェレット、
いえうさぎ、
犬、猫、
馬、牛、ひつじ、やぎ、
金魚、錦鯉、
ヒメダカ
…など

園芸種、農作物

コスモス、ひまわり、
チューリップ、パンジー、
あさがお、おしろいばな、
稲（米）、大根、人参、
ねぎ、ゴーヤ、ピーマン、
トマト、ミニトマト、
キャベツ、とうもろこし、
じゃがいも、さつまいも、
かぼちゃ、いちご、
さくらんぼ、みかん、
ブルーベリー、
桜（ソメイヨシノ）、
芝生　…など

外来種

アメリカザリガニ、
ウシガエル、
外国産のクワガタムシ、
アライグマ、
ブラックバス、
ブルーギル、
ゲンゲ（レンゲ）、
シロツメクサ、
セイタカアワダチソウ、
オオキンケイギク、
キショウブ、
クレソン、
ホテイアオイ、
シダレヤナギ　…など

☆ この「自然のもの」の例は、主に関東地方の平野部を基準としたものです。日本の自然は実に多様で、同じ種であっても地域によっては「自然ではないもの」になってしまう場合があります。まずはご自身の住む地域の自然について調べてみましょう。

学校・園庭ビオトープ　チェックシート

このコンクールでは、学校ビオトープ・園庭ビオトープを通じた教育や保育を、6つの審査観点で評価しています。
以下は、それらの審査観点に基づき、補足調査(現地)に携わった審査委員が高く評価した事例です。みなさまの取り組みを自己評価する際にご活用ください。

ビオトープについて

- ☐ 生物多様性を保全するために、また、子どもたちの正しい自然観を培うために、自然のもの（在来種）と自然ではないもの（愛玩動物、農作物、園芸種、外来種）を区別している。
- ☐ （規模にかかわらず）目標とする野生の生きものの誘致や自然発生を目指して、課題を見いだしながら、保全管理で工夫している。

子どもの関わりについて

- ☐ （特に幼児教育や保育の場合）自然とのふれあいをきっかけとして、遊びに発展性や他の活動への展開が見られる。
- ☐ 自然とのふれあいにとどまらず、野生の生きものの生育・生息しやすい環境づくりや、他の子どものビオトープへの関心を高める普及活動などへと発展している。

ビオトープの活用について

- ☐ 各学年、各教科等の教育課程に、ビオトープを通じた学習を系統立てて位置づけている。
- ☐ 子どもの気付きや探究する態度を培う工夫をしている。
- ☐ （幼児教育や保育の場合）園庭の自然の様子、園児の活動、そのときの援助の内容などを継続的に記録、検証し、次年度に生かしている。
- ☐ 体験活動や学習活動による子どもの成果物が蓄積され、授業の結果が検証されている。

保護者や地域の方々の関わりについて

- ☐ ビオトープを子どもと地域の多様な主体との協働の場と捉え、また、子どもが協働する主体の想いや考えを体感する機会と位置づけている。
- ☐ 多様な主体と継続的に連携しながら、保全管理を行っている。

持続的な管理活用の体制づくりについて

- ☐ 教職員全員がビオトープを通じた教育に携わっている。
- ☐ 教員間、児童・生徒間で、ビオトープに関する活動の引継ぎが行われている。
- ☐ PTAや地域で、ビオトープの管理活用を支える体制が整っている。

地域への広がりについて

- ☐ ビオトープと地域の自然との比較がなされている。
- ☐ ビオトープが地域の自然につながっていることの必要性について、気付きを促している。
- ☐ 学校・園庭ビオトープの地域での普及、もしくは、自然との共存という考えの普及に貢献している。

公益財団法人
日本生態系協会

ver.1.0.0.2.0.0.8.2.0.2.0

非売品 禁無断転載

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

学校・園庭ビオトープがより良い日本と社会をつくる

今の日本には、山にも身近な場所にも、みどりはありますが、自然はありません。そのような状況において、学校ビオトープや園庭ビオトープはとても重要な役割を担っています。

私たちの国は68%が森林に覆われていると言われていますが、実は自然の森は18%ほどしかありません。草はらや水辺などを加えても、自然の土地は20%程度。〝みどり〟はあっても〝自然〟はないのです。※1

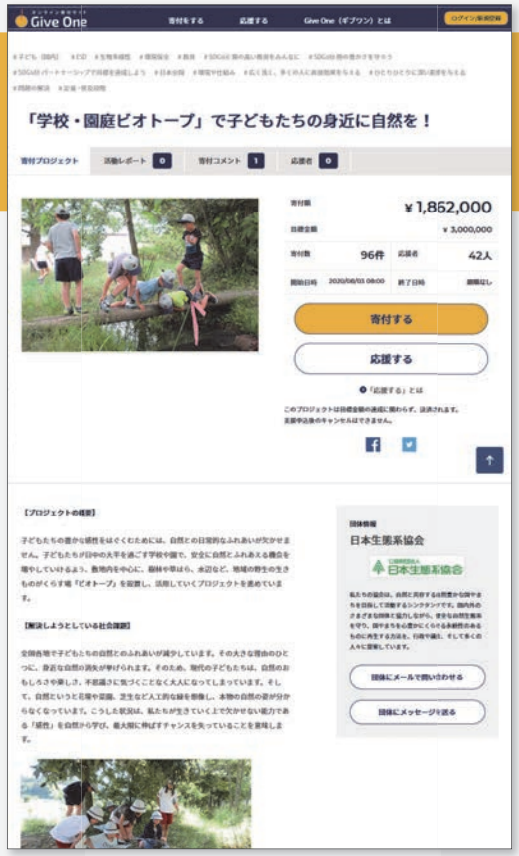
また、殺虫剤や除草剤などの農薬や、ビオトープの喪失が原因で、世界中で昆虫が減っています。※2 日本も例外ではなく、そのうちチョウやトンボを一度も見たことのない人が現れてしまうかも知れません。

けれども、学校・園庭ビオトープをつくれば、自然が少しずつ増えていきます。そのビオトープ同士を自然でつないでいけば、地域の自然を守り、もっと増やすことができます。そして、ビオトープをめぐる取り組みは、人と人とを絆でつないでいきます。

学校・園庭ビオトープは、SDGsを達成に導く近道です。より良い日本と世界をつくるため、この活動を広げましょう。

※1 会報『エコシステム』第166号（19年11月号）参照
※2 ドイツ連邦政府『昆虫保護行動計画』日本語版参照（当協会のホームページにて公開）

プロジェクト：「『学校・園庭ビオトープ』で子どもたちの身近に自然を！」
寄付にご協力ください



図書室や体育館と同じように、「ビオトープ」がどこの学校・園にもあたりまえに置かれることを目指して――。

オンライン寄付サイト Give One（ギブ ワン）にて、学校ビオトープ・園庭ビオトープを設置し活用をより広げていくための寄付を募っています。

寄付は社会を変える第一歩。ぜひご協力ください。

たとえば、寄付をいただくことでできること

- 5千円のご寄付をいただくと…
  学校・園1件に、学校・園庭ビオトープの管理活用に役立つ資料を提供することができます。
- 1万円のご寄付をいただくと…
  学校・園1件に専門のスタッフが出向き、学校・園庭ビオトープの取り組みにアドバイスできます。

アクセスしたら「ビオトープ」で検索。

Give One でのご寄付は、すべて寄付金控除等の税制優遇の対象となります。

＊画像はイメージです。

公益財団法人
日本生態系協会
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
Tel.03-5951-0244 Fax.03-5951-2974 www.ecosys.or.jp